

## 第1回酒田駅周辺整備調整会議概要録

- 1 日 時 平成29年2月16日（木）午前9時～午前11時30分
- 2 場 所 酒田市役所 3階 第2委員会室
- 3 出席者 委 員：倉田委員、高谷委員、平澤委員、大野委員、中川委員、  
田中委員、大石委員（欠席なし）  
委員以外：株式会社RIA、株式会社図書館総合研究所
- 4 内 容 以下のとおり

### （1）調整会議の運営について、以下のとおり公開方法を決定した。

- 調整会議は原則として非公開とする。ただし、第2回以降の調整会議の開催日時等については、ホームページで公表を行う。
- 市民への周知が必要と認める事項について、会議概要録を作成したうえで公開することを基本とする。

### （2）酒田駅周辺整備事業の施設計画について意見交換を行った。

- 街区間の市道が廃道するというの大きい計画条件の変更である。廃道によって、より魅力的な案があるように思う。もう少し可能性を検討していただくことで、よりこの案がよくなる一つのきっかけになるのではないか。
- 事業者から提案された光の湊というイメージで市民から同意を得ていた中で、どこまで変更ができるのか。
- 今回の再開発事業が目指しているものは、事業の成立性も当然であるが、大きな目的として、にぎわいや市民にとっての居場所づくりであり、人が多く足を運ぶ場所になれば、事業性という面でもプラスになる。その仕掛けの一つとして広場のあり方が大事ではないか。
- 広場という空間はあるが、建物側が開かれていないように感じるので、廃道を生かし、広場を施設の中心に持つことも可能でないか。広場を介して各施設に新しい関係が生まれることが考えられる。
- 現在の提案を生かしつつ施設の中心に広場を設け、周辺施設と一体感を持たせる配置にするというのは良いと思うが、物理的に時間など対応が可能であるか。時間が許す中

で、最大限追求することで、結果は随分違ってくるのではないかと。

- スケジュールとしては、平成29年度実施設計完了に向けて進めたい。そこに向けての効率的な進め方が必要となる。
- 駅前はまだ高い建物が許される場所ではないか。
- 建物を高くする場合は、コストが上がるので高さは抑えたい。
- 高さについては制約条件だと思うが、配置的に少し工夫するとか、意匠的なレベルでできる工夫もあるのでないか。
- 今の計画では、居場所作りという点で配慮が足りないという印象がある。
- 今のライブラリーセンターのプランでは、読むスペースが整然と並べられて、かきこまった利用者の姿しかイメージできない。
- 新しい図書館というイメージや居場所作りと考えると、できるだけオープンにし、いろんな市民の姿が見通せる図書館というのが大事ではないか。
- ライブラリーセンターの課題の一つに開架と閉架の割合がある。この比率は柔軟に考えた方が、居心地や交流の場を豊かに取れるのではないかと。
- 電子媒体やサイネージなどを活用しながら、図書館の情報提供をすることで、開架と閉架の割合にはあまりこだわらない方がよいのではないかと。
- 図書館に来て、決まりきった閲覧スペースでなく、ラウンジ的なところで雑誌を読んだり、お茶を飲んで過ごせたりなど、そういった設えも図書館のハードとして少し意識していかなければならないと思う。
- 広場にいろんな人が集まる風景が、目に浮かぶような提案をお願いしたい。酒田らしさは後からついてくる。ここにしかないような、作り込んだ気持ちのいい場所とか、オペレーションがうまくいくなどが酒田らしさになると思う。
- 酒田らしさについては、単に建物の表層のデザインではなく、地方都市のゆとりある空間の居心地のよさを実現するという部分もあると思う。
- 酒田らしさを直接表現であるとするならば、鳥海山が見られるというのはいままでかきこまなかったと思う。
- 本日の議論した仕組みが実現すると酒田らしさというものが出てくるのではないかと。